

情報の信頼性判断におけるインターネット検索の意義

菅原 みく梨

情報社会である現代、インターネット上には、多くの発信者による多種多様な情報が溢れ、私たちはそれらの情報に簡単にアクセスできるようになった。しかし、インターネットの普及によって、情報の量が大幅に増えたことに伴って、情報の質が低下し、虚偽の内容を含む情報が多く出回るようになったことにも注意が必要である。そのため、入手した情報をうまく活用するためには、情報をそのまま受け入れるのではなく、情報が信頼に値するものであるかを検討し、受け入れる情報を適切に選択することが重要だ。また、情報は使い捨てではなく蓄積されるものであり、情報を獲得した直後だけでなく、ある程度の時間が経過した後も、信頼性を正確に判断できる能力は非常に重要であると言える。しかしこれまでの数多くの心理学研究から、人間は情報を入手してからの時間が経過すればするほど、情報の信頼性を正確に判断できなくなることが知られている。情報の信頼性を正確に判断するためには、入手した情報を懐疑的な目線で検討すること、入手した情報についてさらに詳しく調べることが推奨されており、現代においては、情報収集や調査の手段としてインターネット検索がよく利用されることから、情報入手直後に情報に関する気になる点についてのインターネット検索を行うことが時間経過後の情報の信頼性判断に影響を与える可能性を考えた。

そこで、本研究では、情報入手から一定以上の時間が経過した場面を考え、情報入手直後にインターネット検索を行うことが、後の信頼性判断の正確性に影響を与えるかどうかを検証する。これらを検証するために、記事を閲覧してその信頼性を評価するタスクを用意し、閲覧した記事に関するインターネット検索を行う条件と行わない条件での時間経過後の信頼性評価の違いを調べる。本研究における実験はクラウドソーシングを用いてオンライン上で実施し、実験タスク実施後に行う実験参加者への質問紙調査の回答を分析することによって考察を進めた。

結果として、信頼性判断を2週間後に行う場面において、情報入手後にインターネット検索を行う条件では行わない条件と比べ、2つの情報を比較してどちらがより信頼できるかを問う信頼性の比較評価を正確に行うことができることが分かった。この結果は、情報を入手してからの時間が経過することによって信頼性を正確に評価することが難しくなるといった心理学的知見に対し、インターネット検索を行うことが時間経過による信頼性比較評価の正確性の低下防止に有効である可能性を示唆する。

(指導教員 金 宣経)